提　言　書

令和５年３月２４日

令和４年度
とっとり若者地方創生会議

とっとり若者地方創生会議（令和４年度）

会　長　下江　信之介（公立鳥取環境大学　環境学部　２年）
副会長　吉澤　美月　（公立鳥取環境大学　経営学部　３年）
委　員　上野　莉里花（公立鳥取環境大学　環境学部　３年）
　　胡子　由希　（鳥取市医療看護専門学校　作業療法士学科　２年）
　　佐野　将大　（鳥取大学　農学部　２年）
　　清水　愛結　（鳥取大学　地域学部　２年）
　　友田　岳志　（鳥取大学　農学部　２年）
　　野間　嵩央　（鳥取大学　地域学部　２年）
　　濱崎　大輝　（鳥取大学　地域学部　１年）

１　会議等開催実績

〇会議（全１６回）

令和４年　６月　２日・２２日
　　７月　８日・１９日
　　８月１６日
　　９月１２日
　　１０月　４日・２５日
　　１１月１５日
　　１２月２０日
令和５年　１月１７日・２７日
　　２月２１日
　　３月　３日・　９日・２０日

２　本年度の主な活動内容

（1）　農林水産業分野の従事者へのオンライン聞き取り調査
・第１回：１２月　５日：漁業
・第２回：１２月１６日：林業
・第３回：１２月２９日：農業（果樹）
・第４回：　１月１１日：農業（穀物）

（2）　若者へのアルバイトに対する意識調査

（3）　鳥取市の新たな観光紙の試作

（4）　とっとり若者地方創生会議の新規 Instagram の開設・ポスター作成

３　背景

鳥取市の老年人口（65 歳以上）は、1980 年以降増加する一方で、年少人口（0～14 歳以上）は減少してきており、2000 年以降、老年人口が年少人口を上回る状態が続いている。また、生産年齢人口（15～64 歳）についても減少している。

現状として、鳥取市の農林水産業に学生が携わる機会が少ない事が挙げられる。その為、若者自身が鳥取市の魅力に触れ、鳥取市の移住定住を促進させていくことが求められている。

また、各大学や専門学校などで広報はされている物の、とっとり若者地方創生会議自体の認知度が低い事も現状として挙げられ、本会議がどのような取り組みを行っているのか知られていない状態にある。

４　活動内容

令和４年度のとっとり若者地方創生会議では、「鳥取市への若者の移住定住の促進」をテーマに、「鳥取市における若者の移住定住に関する調査、Instagram 開設と制作物による本会議の認知度の向上」を目的として、企画班、意識調査班、広報班の３つに分かれて活動を展開してきた。まずは、鳥取市の“職”に着目し、鳥取市内の大学生を対象とした、アルバイトに関する意識調査を実施。その結果を踏まえ、農林水産業の従事者への聞き取り調査を展開した。加えて、若者目線での“鳥取市の魅力発信”と本会議の“認知度の向上”を目的とし、本会議の新規 Instagram の開設・運営並びに、ポスター作成に取り組んだ。また、「地方から地方へ」の観光客誘致を促進するべく、鳥取市の新たな観光紙の作成も行った。

５　活動経過

平成 28 年度からの活動内容を以下の表にて整理した。これまでこの会議の委員は、主に鳥取大学と公立鳥取環境大学の学生で構成していたが、令和 3 年度からは新たに鳥取市医療看護専門学校の学生も委員として加わり、多様な視点・考えを議論に反映させることができた。

鳥取市出身者や鳥取県外出身者といった様々な視点を持つメンバーの特性を活かし、多くの制限が課される中でも、私達学生だからこそ出来る活動をこの 1 年間を通して行うことが出来たと実感している。また、今年度の取り組みの成果を確認出来た事、反対に直接話を伺う中で発見した課題があった事、活動を通して感じた課題や鳥取市の利点など、明らかになった事を踏まえて来年度の活動へとつなげていきたい。

以下、来年度のとっとり若者地方創生会議の活動として次のテーマを提案、又提言する。

とっとり若者地方創生会議のこれまでの活動内容

年度	魅力発見	働く	広報	イベント	視察	意識調査
H28		社会人との交流会「カフェ de トーク」	大学祭でのアンケート		島根県雲南市	
H29	バスツアー「よるバス」	社会人との交流会「カフェ de トーク２」	新入生向け街歩きマップの作成「とっとりぐるっぽ地図」			
H30		企業見学会「企業まる見え！見学隊」（大山乳業・鳥取銀行）			岡山市大学生ワークショップ参加	学生への広報のしかた「つながるハンドブック」
R1	市の農産物紹介「とっとり旬を味わうカレンダー」	企業採用者との意見交換「鳥取就職大討論会」（鳥取銀行、ひよこカンパニー、LASSIC）	市の農産物紹介「とっとり旬を味わうカレンダー」	学生交流会「イドバタ」		
R2			新たな SNS による情報発信の検討	地域活動がテーマの交流会「飛び込め！活動の環～地域に踏み出すステップアップ交流会～」		若手社会人への移住定住に関するインタビュー調査
R3	鳥取市の魅力を再発見する為のヒアリング調査		鳥取市の魅力を発信する動画作成	鳥取市内に住む学生と地域との繋がりをつくるイベントの検討		鳥取市の魅力を再発見するためのヒアリング調査

R4	鳥取市の新たな観光紙の試作	農林水産業分野の従事者へのオンライン聞き取り調査	① 鳥取市の新たな観光紙の試作 ② Instagram 開設・ポスター作成			若者へのアルバイトに対する意識調査

7　提言内容

◆テーマ

『鳥取市への若者の移住定住の促進』

◆　達成のための取り組み

① 鳥取市の色んな仕事をのぞいて、未来を発見しよう！
② 「ターゲットリップ」の制作と観光客誘致の仕組みづくり
③ 鳥取の地域資源の再発見・再利用を行い、鳥取やとっとり若者地方創生会議の認知度向上に繋げる
④ 農林水産業従事者の育成の為の若者への資格取得支援

① 鳥取市の色んな仕事をのぞいて、未来を発見しよう！

本会議では、鳥取市の若者の定住を考える上で“働き口の問題”に着目した。その中で、特に担い手不足が指摘される第一次産業において、学生アルバイトを増加させる事が可能なのかという点に目をつけ、鳥取市内の大学に通う学生を対象とし、アルバイトに関する意識調査を実施した。調査を通して明確になったのは、普段は聞くことが出来ない学生たちが求めている働き口や鳥取の産業への興味関心の度合いなどといった数々の本音。それらからは、農林水産業分野における学生の興味関心の低さを知る事が出来る。

この結果を踏まえ、本会議では、鳥取市における農林水産業（漁業・農業・林業）の現状や課題を調査し、今後の農林水産業分野への若年層の関わり方を考えたいと実際に従事されている方への聞き取り調査を実施した。聞き取り調査を通して明確になったのは、インターネットの情報だけでは知る事が出来ない、生の声。私達は、実際に現場で働く人の声＝内部の視点、本会議の学生からの視点＝外部の視点と捉え、双方向から見る農林水産業を知る事で、新しい解決策や施策を提言できるのではないかと考えた。その中で、私達は“とっとり若者地方創生会議”で行うからこその意味というのを重視し、若者目線での提言を行うべく、検討を重ねた。聞き取り調査からは、農林水産業の現状について次の事を知る事が出来た。

まず、機械化やデジタル化の技術がかなり向上した事により、それらは担い手不足や労働不足と言った課題に直結した解決策となっている事が言える。また、私達が行った事前学習で得ていた情報と実際に現場におられる方の生の声にはかなり差があり、複数の視点から産業の現状や課題を知る事の重要性を感じた。“３Ｋ”という理由であまり興味を持たれにくいとされている農林水産業分野において、若年層の従事者の増加を図る為の取り組みとして、働き方の改革が行われているなど、農林水産業分野への見え方が変わった。オンライン聞き取り調査を実施した事により、普段の日常生活において様々な産業に対して考えを巡らせる事は無いが、改めて、一次産業に対するイメージを見直す必要がある事や、興味関心を持って物事を見てみる重要性などに気づく事が出来た。そして、オンライン聞き取り調査といった、「従事者の声を知る」取り組みは、それらの職業分野への興味関心を図る術としては、かなり有効であると言える。

これらの気づきを踏まえ、私達は 2 つの取り組みを提案したい。1 つ目は、「若者が若者へレクチャー～まずは地元産業を知る事から始めよう～」である。これは、今回取り組んだような、従事者への聞き取り調査を本会議メンバーが事前に行い、そこで得た、それぞれの産業の現状や課題・気づきを、地元の高校生を対象として、講師になり、レクチャーをする取り組みだ。その際に、メンバーは自身の専攻している学問と紐づけてみたり、地元の産業と比較して考えてみたりと、様々な学校出身が違う人が集まって成り立っている“とっとり

若者地方創生会議”ならではの魅力を持った企画にする事が出来る。実際の従事者に話を聞く事によって得られる「内部の視点」と、それらを踏まえて考察を巡らせる本会議メンバーの「外部の視点」を上手く利用し、地元高校生に鳥取の産業の良さや魅力に気づいて貰いたいという狙いを持った取り組みである。加えて、実際に体験会と言った形で、鳥取の産業に触れてみるイベントの実施も検討していきたい。最終的にこの取り組みを行う事により、この取り組みに関わった学生自身も学校生活の中で何か自分に出来る事をしたい、鳥取の産業へのイメージが少し変わった、将来的に課題解決に取り組む側になりたい、県外に出てしまっても地元の産業については自信を持って話せるなど、そういった思いを持った学生を育成する事が出来ればと考える。

2 つ目は、鳥取市版「トライやるウィーク」の内容の検討である。これは中学生を対象として行い、生まれ育った鳥取の企業や産業の現場に入り、職業を体験する中で、魅力を発見していく取り組みである。実際にこの取り組みは、鳥取県や兵庫県の一部地域で似たような物が行われており、本会議メンバーも実際に体験した事により、様々な刺激をえられたとの感想がある。しかし、現時点で行われている物は、自身が職業を体験するという知識や技術を得る“インプット”が中心だ。そこで私達は、職業体験を通して学んだ知識や経験、技術を第三者に伝える“アウトプット”の機会を設ける事を提言したい。アウトプットとして何かしら新聞形式にまとめたり、人前で発表する機会を設けたりする事で、“誰かに伝える”事を通して、学生自身が情報を整理出来る他、“文字におこす力”や“人に伝える力”などの向上も促進できる。中学生の時に職業体験をする事により、地元産業の捉え方を向上させ、その経験をもとに、高校では様々な産業に興味を持ち、それぞれが抱えている課題を実際に調べてみるなど、まずは産業に触れるきっかけを中学生の時から与える事を狙いとしている。

② 「ターゲットリップ」の制作と観光客誘致の仕組みづくり

鳥取市への若者の移住定住の促進を図る為には、県外在住者に向けて鳥取市のＰＲを行い、まずは旅行等で鳥取市に訪れていただく事も重要であると考える。そこで、本会議では、鳥取市の「観光」に着目し、これまで注目される事が少なかった「地方から地方へ」の観光客を誘致する為に、特定の都道府県の住民に向けた鳥取市の観光紙の作成に取り組んだ。

そもそもこれまで観光施策は、主に「都市部⇄地方」「海外→地方」が意識され、観光紙の多言語対応などが行われてきた。そこで今回、本会議では「地方⇄地方」の観光客に注目し、特定の地域の住民を呼び込む為の新たな観光紙の作成に取り組んだ。第一弾として、メンバーの出身地である鹿児島県の住民をターゲットとし、実際に観光紙の作成と配布を行った。観光紙の作成を通して明確になったのは、普段は意識していない鳥取市と鹿児島県との共通点（歴史・農作物）の数々。これらの事から、現在作成されている観光紙は、地域の魅力を伝える事だけに限られて行われていると考える。そこで、今回作成した「ターゲットリップ」を他の都道府県版で作成し、新たな観光客誘致の仕組みを作る事を提案する。本会議のメンバーは、毎年、鳥取市出身者をはじめ、様々な都道府県の出身者で構成される。その特性を活かし、長期的な活動として定着させる事を視野に入れたい。

③ 鳥取の地域資源の再発見・再利用を行い、鳥取やとっとり若者地方創生会議の認知度向上に繋げる

鳥取市は、全国でも比較的人口が少ない県庁所在地である他、若者が高校卒業を機に就職や進学で県外へ転出してしまう傾向にある。これらの状況を抑制する為の対策として考えられるのは、今鳥取市に住んでいる若者が“鳥取”の良さや魅力を「認知」する事と、地元に対する何かしらの「アイデンティティ」を確立する事では無いだろうか。「あなたの地元には何がありますか？」と問われた際、若者自身がより多く地元の魅力を発信できる為にも、現存する鳥取市の観光地を発展させるだけではなく、更に地域資源を再発見する事、加えて地域の中で今暮らしている人々に着目し、鳥取市の“職”や“地域資源”を通して若者の「地元」に対する“愛着”を向上させる事が求められていると考える。そこで本会議では、Instagram を開設し、「鳥取の魅力発信」「本会議の周知や情報発信の 1 つの手段」「地域

資源の再発見と再利用の先駆け」を目的として、情報発信に取り組んだ。加えて、本会議の認知度の向上と若者が鳥取市でどのような活動を行っているかを周知する為に、本会議を紹介するポスターの作成を行った。

その結果、課題として挙げられるのは「フォロワーを獲得する難しさ」である。現に、本会議が新しく開設した Instagram のフォロワーは 82 人（2023 年 3 月 16 日時点）と伸び悩んでいる。運営を行う中で、「より多くのフォロワーを獲得する事による情報発信の強化」や「今、鳥取市に在住している若者への魅力発信」を達成するために、“とっとり若者地方創生会議”ならではの若者から見た、“視点”を重視し、それらに焦点を当てた投稿や、地元の中学生・高校生を巻き込んだ企画を実施する事を提案する。特に、「地元中学生・高校生とのＳＮＳコラボ企画」では、学生自身が主体となり、鳥取市の魅力を再度考える機会に繋がる他、若者目線での発信を強化する事にもなりうる。

これらの事から、Instagram の運営をより円滑に行い、若者の視点による鳥取市の魅力発信を進めていく事や、既に「鳥取を良くしたい・盛り上げたい・元気にしたい」と頑張る人達を取り上げる事により、更なる鳥取の魅力発信に繋げて行きたい。

④ 農林水産業従事者の育成の為の若者への資格取得支援

農林水産業分野の従事者へのオンライン聞き取り調査を実施した中で、農林水産業分野において、ドローン操縦が出来る人材やコンピューターソフトを活用した情報処理技術を有する人材など、IT や ICT 分野で活躍できる人材が求められている事が明確になった。

鳥取市の現状として、就職や進学を機に、県外へ転出する若年層の割合が多く、鳥取市に残る割合がかなり少ないという事が分かっている。更に、農林水産業分野においても少子高齢化の影響で、従事者の高齢化が進んでいる事から、担い手不足や労働不足を解決する仕組みづくりが求められている。その 1 つの取り組みとして進められている、IT や ICT の技術の導入だが、ベテラン層にとっては中々着手しにくいのも現状だ。そこで若年層が求められると考えるが、それらの技術を取得する為の資格取得には費用もかさむ為、中々手が伸ばしづらい。

そこで鳥取市として、未来の農林水産業従事者の育成の為に、高校生・大学生の時から IT や ICT 関連の資格取得を目指す事が出来る、「資格取得プログラム」の構築を提案する。以下はその例である。

「社会人の場合、鳥取市内に最低 5 年以上定住。高校生・大学生の場合、鳥取市への就職を検討、または農林水産業関連事業を自らが設立する。これらを満たした者のみ、資格取得費用を一部、市が負担する」

資格取得費用の補助の例としては、情報処理技術者能力認定試験、python 試験、IOT 検定などあるが、プログラミングの資格を取得する場合には 8 割補助、ドローン免許を取得する場合には 9 割補助、情報処理能力検定の場合には 5 割補助など、習得する資格によって割合を異なる設定とする。これらの施策を行う上で、資格取得者が市外又は県外に転出してしまう事を防ぐために、様々な条件が必要になってくることは、念頭に置いておきたい。

私達はこの 1 年間「ゼロから 1 を生み出す活動」を行ってきた。それぞれ学部や専攻が違うメンバーが集まる事で広い視点で客観的に鳥取市を見つめ、課題について議論を深めることが出来たと感じている。本会議は、鳥取市について真剣に考える機会となり、課題解決のための政策を考案する難しさを実感した。学生それぞれの得意分野をフル活用し、1 年間をかけて考えを深める事が出来たこの経験は非常に貴重な物であった。「何のためにこの提案をするのか」、意味や目的を検討し、“とっとり若者地方創生会議だからこそ”の魅力を前面に出す事が出来たと感じている。